

科技高 いきものの記

Vol.57 2022.8.16

生物教員 佐藤龍平

雨の日ならではの嬉しい出会い 陣馬山のヒキガエル

7月26日、夏休みに入り、アウトドアライフ部で東京の西の端の山に登った。陣馬山に登り、尾根沿いに景信山、城山を渡って高尾山に抜けるロングコースだ。その日は朝からあいにくの雨で、ずぶ濡れになって雷も鳴り出した時は引き返すことも考えたが、幸い山頂に近づくにつれて天気は回復した。ぬかるんでいた登山道を転ばないように慎重に歩いていたら、前にいたコウスケが「あっ！」と叫んで急に駆け出し、**地面の何かをつかんだ。…ヒキガエルだ！しかもかなりデカイ！**猿江公園ではこれほど大きいヒキガエルは見たことがない。



最初にコウスケが見つけた巨大ヒキガエル。この日見つけた中では最大サイズだ。全身黒っぽい。

コロナ禍の運動不足もあってかなりへろへろになっていたのだが（無論、生徒は元気である。へろへろなのは私だけ。）、カエルがいることが分かって一気にアドレナリンが出て足取りが軽くなった。ウキウキな気分では尾根道を歩いていると、**出るわ出るわ！**大小さまざまなサイズのヒキガエルがたくさん飛び出てきた。終いには部員たちは「なーんだ、またカエルかぁ」と飽きてしまう始末である（飽きるのが早い！こんな楽しい登山があるかい！と心の中で思っていた）。陣馬山で見られたヒキガエルは、からだの側面が赤いものが多く、とても美しい。このあたりの個体群の特徴なのだろうか。近くに水場は見えないが、いったいどこで繁殖しているのだろう。どのくらい山に登ることができるのだろうか…。

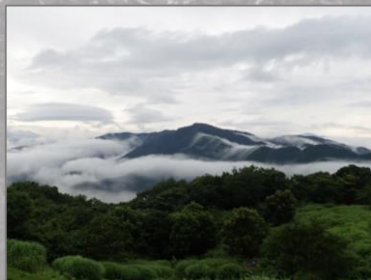
晴れた日に登っていたら、このヒキガエルたちにはまず会えることはなかっただろう。雨の登山は大変だが、雨ならではの楽しみ方を見つければ、つらいことも楽しくなる。



雨の登山道を歩いていると、たくさんのヒキガエルに出会った。ヒキガエルは平地の池などにいるイメージだが、山間部にも生息している。夜行性だが、雨の日などは昼も活発になるようだ。繁殖期以外は水辺から離れて森の中などで生活している。



雨の登山道。全身ずぶ濡れ、足元は泥だらけだ。



陣馬山の山頂からの景色。土砂降りの雨がいったん止んだ。



からだの横の赤みが強くて大変美しい若い個体。ここまで美しい配色は図鑑やネットにもあまり載っていない。



小さめの個体。全体的に赤茶色っぽい。サイズも模様も色合いも個体ごとで違っていた。



タゴガエルもいた！（タゴガエルについてはVol.48参照）